

平成27年度 地域を支える持続可能な物流ネットワークの構築に関するモデル事業

～ “きこり” と “花屋” で切り拓く里山の未来～

実施報告



はじめに ～玉川地区の紹介～



はじめに ～玉川地区の紹介～

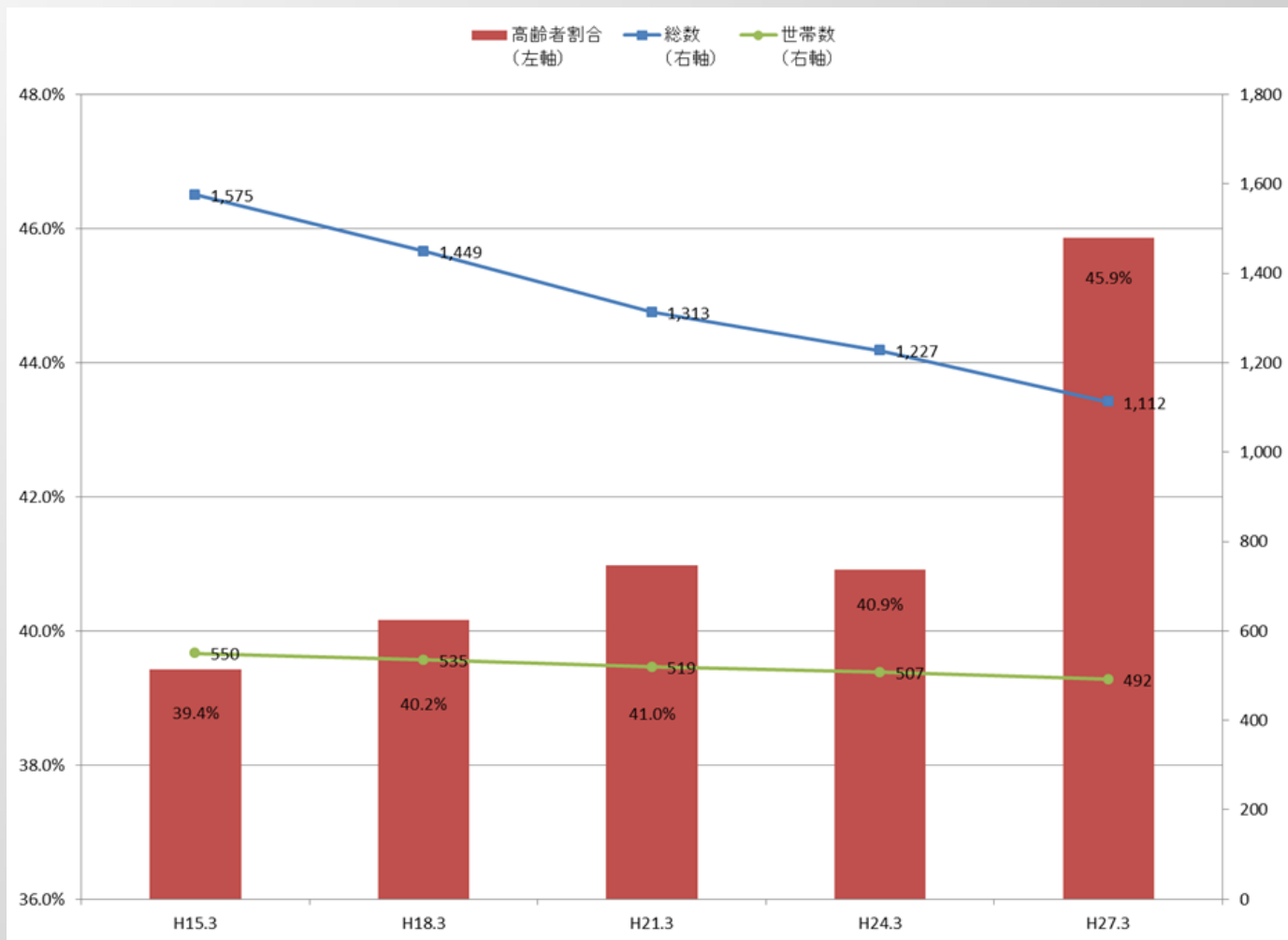


玉川地区、茶畑の美しい景色



玉川地区の現状

①過疎化・高齢化の進行



高齢者割合が
45.9%と
静岡市平均
(27.8%)を
大きく上回る

ここ十年
あまりで
人口が
約3割減少

玉川地区の現状

②人口流出が多い

息子年齢	節目	場 所	場 所	息子の言葉、気持ち	親の年齢	親の言葉、気持ち
0才	出生	市内の病院			28才	
10才	小学生	玉川小学校			38才	
15才	中学生	玉川中学校			43才	
17才	高校生	市街の高校	・バス通学 ・親の車で通学 ・寮、アパート、下宿	・地元には高校が無く市内へ ・通学が「大変だと言う理由でアパート暮らし」になる	45才	
20才	大学	県内、県外	・寮、下宿 ・アパート	・大学を出ないと……の理由で、進学。	48才	
20才	就職	県内、県外	・車通勤 ・アパート暮らし	・地元、玉川には働く場所が無く、市内、県外で就職	48才	・通勤が大変だからと、市内の生活を許す
28才	結婚	市内、県内、県外	・新婚生活/2人で アパート生活	・職場、生活圏での伴侶との出会いで結婚	56才	・「アンタ達は若いのでと…」2人での生活を許す
30才	子供出産	市内、県内、県外			58才	・嫁に気を使い…… 気持ちを伝えられない
33才	子供入園	市内、県内、県外		・子供の友達の関係で、生活の場を変えられない	61才	・子供、嫁の事で…… 物を言えない
36才	子供入学 中学	市内、県内、県外		・子供の友達の関係で、生活の場を変えられない ・市内にマンション、家を購入 ・嫁は、今更田舎の不便な暮らしを嫌がる	64才	・65才高齢者、2人暮らしに ・体の動きが悪くなり、免許返納～生活弱者に ・年金暮らしとなる。
52才	高校 大学				80才	
総 評				・息子の生活基盤、習慣は市街地に有り、生活も余裕無し 田舎の親、家、畑の管理は難しい状況。 ・また両親が他界後の家、畑の管理は、経験、生活の余裕 の関係上できなく、空き家、耕作放棄地が増えるばかり。 ※子供の為、嫁の地位の向上、1次産業の衰退 生活様式の変化		・息子の就職時、結婚時の「親の優しさが」、自分の 今後の生活を大変なものに決めてしまう重大性を 判っているが、行動に出せない現状がある。 ※親の威厳の喪失、家の封建制の崩壊

玉川地区における今後の主要課題

- ①**地域コミュニティ**をどのように維持していくか？
⇒地域内に多機能を有する小さな拠点を整備する。
- ②**玉川地区と都市部を結ぶ交通・物流ネットワーク**をどのように維持していくか？
⇒両拠点間における需要の創出を図ったうえで供給量を拡大する。
- ③**地域資源**をどのように利活用していくか？
⇒地域資源をブランド化し販路を確保する。

今回のモデル事業を通して、これらの課題に対する対応策について実現可能性を検証した。

モデル事業のフレームワーク



里山

と

都市部

を

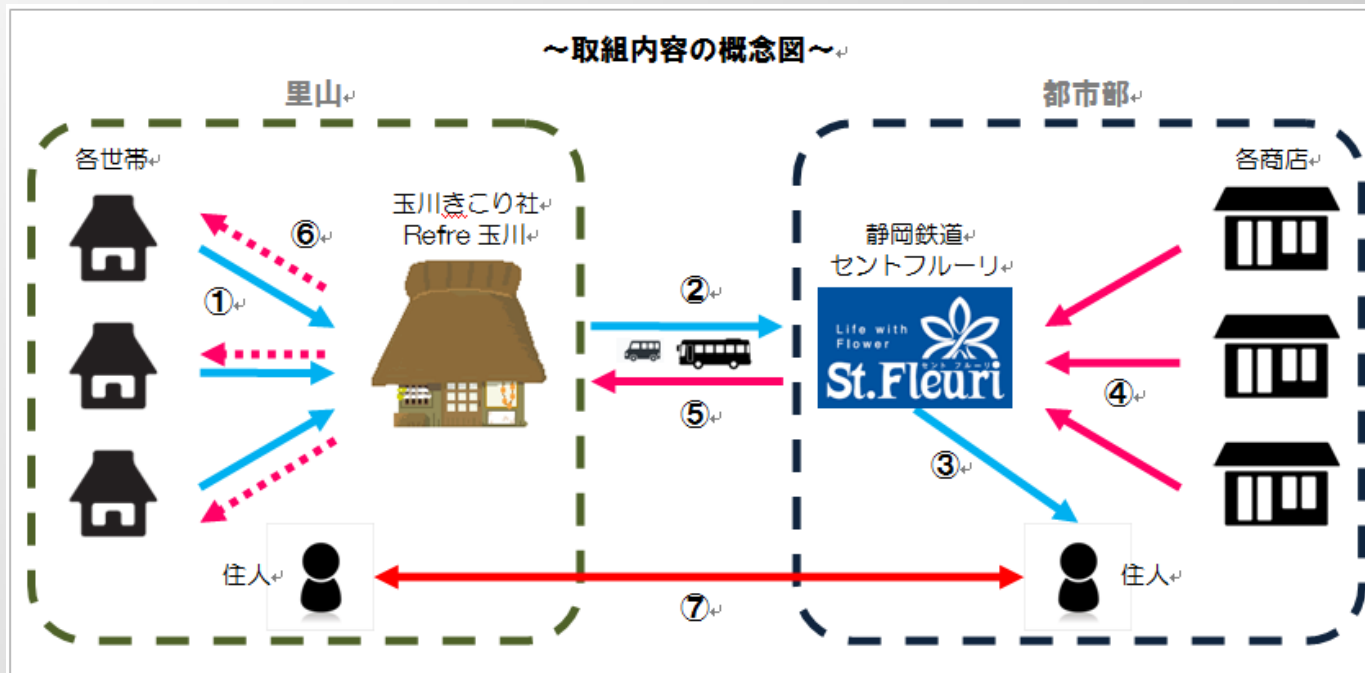
既存の物流網

で繋ぎ

集落の活性化・持続可能な地域づくり

を目指す。

モデル事業の概要



- ①里山内各集落の安否確認や空家見守りを兼ねて、地域特産品(キノコ、枝モノ、野菜、穀物、等の在来種を中心とする)を玉川きこり社が集荷する。また、都市部から調達したい商品を御用聞きする。
- ②玉川きこり社で集荷した地域特産品を、セントフルーリ集荷便や公共交通、都市部へ通勤する里山住民の通勤車などを利用して都市部へ納品する。
- ③里山の地域特産品を里山ブランドとして都市部で消費者や市場などに販売する。同時に、里山の日常やイベント情報を都市部の住人向けに発信する。
- ④玉川きこり社が御用聞きした商品をセントフルーリが都市部の各商店から集荷する。
- ⑤都市部で集荷した商品を、セントフルーリ集荷便や公共交通、都市部へ通勤する里山住民の通勤車などを利用して里山へ納品する。
- ⑥都市部から集荷してきた商品を各世帯に配達または取りに来てもらう。(⇒①に循環する)
- ⑦都市部でのイベント情報発信により参加者を募り、縁側カフェや木こり塾、山野草摘みなど、里山住人と交流イベントを行うことで、心の過疎化を食い止める。

モデル事業における主な取組事項

①主要事業

- ✧ 集落内での安否確認や空家見守りなどを兼ねた御用聞き。
- ✧ 御用聞きで需要のあった商品の都市部における調達。
- ✧ 都市部から里山内の“小さな拠点”への貨客混載輸送。
（既存物流網も含む）
- ✧ “小さな拠点”から各世帯への配送及び次回の御用聞き。

②付帯事業

- ✧ 里山内の地域特産品ブランド化による都市部でのイベント販売。
- ✧ 都市部の人を里山に呼び込んだ交流イベント。

主要事業（御用聞き & 貨客混載）実施手順①



Refre玉川が対象世帯を回り、
注文の有無や注文内容を聞き注
文用紙に記入する。

その後、注文用紙をRefre玉川
からセントフルーリへ送る。

主要事業（御用聞き & 貨客混載）実施手順②



注文用紙を基に、セントフルーリがしずてつストアのネットスーパー（田町店が拠点）を利用し、田町店で受注商品のピッキングから荷造りまでを行う。

その後、コンテナに荷造りされた商品をセントフルーリけやき通り店（新静岡駅隣）へ自社便にて運搬。

主要事業（御用聞き & 貨客混載）実施手順③



セントフルーリけやき通り店から新静岡バス停まで（80m程度）荷物を運搬し、玉川方面行のバスにコンテナを積み込む。

主要事業（御用聞き & 貨客混載）実施手順④



今回はハード面に改修を加えない前提でのトライアルの為、座席最後部を中心に最大コンテナ3つまでを座席上に置き運搬。

主要事業（御用聞き & 貨客混載）実施手順⑤



新静岡バス停から55バス停を経て、奥の原バス停にて荷物を下し、50mほど徒歩で移動し、集落内分配用の軽自動車へ積み替え。

主要事業（御用聞き & 貨客混載）実施手順⑥



集落内各世帯ごとに荷物を仕分けし、発注伝票との突合を行った後出発。

主要事業（御用聞き & 貨客混載）実施手順⑦



注文のあった世帯には納品及び次回の御用聞きを行う。注文の無かった世帯には安否確認を兼ねて御用聞きを行い、利用の有無だけでなく世間話をする。

御用聞きの利用状況

	御用聞き	宅配	訪問 軒数	受注 件数	受注品目	走行 km数	所要 時間
第1回	11/25	11/27	20	3	鮮魚類、寿司類、乳製品、乳飲料、パン、等	37.0	150分
第2回	11/27	11/30	20	4	鮮魚類、ビール、野菜類、油、調味料、等	32.6	165分
第3回	11/30	12/2	20	2	鮮魚類、精肉類、野菜類、等	34.0	163分
第4回	12/2	12/4	20	3	お米、菓子類、乳製品、日用雑貨、等	34.0	140分

利用者は独居老人世帯が多く、普段は子世代が定期的に買物をしてきている。受注品目は重いもの、嵩張るもの、集落では入手しにくい乳製品や生鮮類が多かった。

付帯事業の実施結果①

<第1回玉川マルシェ概要>

場所：駿府城公園内大道芸W杯内ブース

実施日：10月31日（土）～11月3日（火） 4日間

販売品目数：12品目

販売商品：紅茶、緑茶、さつまいも、木工品、等

販売金額：31,250円



付帯事業の実施結果②

＜第2回玉川マルシェ概要＞

場所：セントフルーリけやき通り店内

実施日：12月19日（土）

販売品目数：23品目

販売商品：紅茶、緑茶、さといも饅頭（目玉商品）、
農産物、木工品、等

販売金額：134,620円



付帯事業の実施結果③

＜耕作放棄茶畑開墾 & 芋煮会@玉川きこり社＞

◆イベント内容

玉川きこり社の裏手に広がる耕作放棄茶畑を開墾し子供たちが自由に遊べる“基地”を段階的につくる。終了後は地元の里いも等を使った芋煮を地元の主婦と共に料理し、歓談しながらの食事会。

◆実施概要

実施日：12月6日（日）

参加者：30名（うち公共交通利用者は5名）

参加費：1,000円（材料費、お土産含む）



事業全体を通して得られた知見

- ◆貨客混載による物流ネットワーク構築には車両改装による専用スペース確保が必要となる。
- ◆集落内の日用品買物支援に関しては需要はある。ただし、集落内の分配については分配者に対する行政支援等が必要となる。
- ◆都市部における販売チャネルの確保、里山でのイベント実施等により、集落内特産品のブランド化及び収益モデルの構築は可能である。
- ◆今回のモデル事業での取り組みを継続していくためには、集落内の“小さな拠点”が非常に重要な役割を担う。

今後の重点取組事項

①機能のシェア（複合化）

宅配時に安否確認や健康確認を行うなど、一度の訪問での機能複合化や、バス車両を貨物と旅客でシェアするなど、一つのアクションを多機能でシェアする仕組みづくりを検討していく必要がある。

②商品需要の創出

相互に行き交う商品がないとそもそも物流は必要ないため、まずは商品需要を都市部と里山の双方で創出していく必要がある。里山においては日用品の需要が最も作りやすく、都市部においては地域特産品の需要が高い。

③拠点の強靱化

これまでの施策では、里山内の拠点整備に目が行きがちであったが、それに合わせて都市部側の拠点整備を進め、ネットワーク化することが今回のモデル事業から明らかになった。

また、里山内の拠点化に関しては複合サービスが提供できるよう、機能強化を実現することで、先に挙げた機能のシェアにも結び付く。

④行政による支援

いずれの取組に関しても、民間だけで出来る範囲は限られている。そのため、現在バラバラといろいろな部署から行っている補助等を集約し、小さな拠点に運営や使途も一任する形で行うことが求められる。

過疎地域における今後の方向性

＜外部環境の変化＞

科学・技術

社会・文化

政治・法律

経済・競争

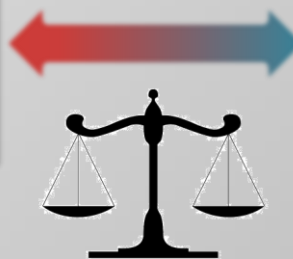
過疎地域がとるべきマーケティング戦略の二分類

＜マネジリアルマーケティング＞

経済機能の維持
＜自立した経済活動＞

＜ソーシャルマーケティング＞

コミュニティ機能の維持
＜地域内・外の交流＞



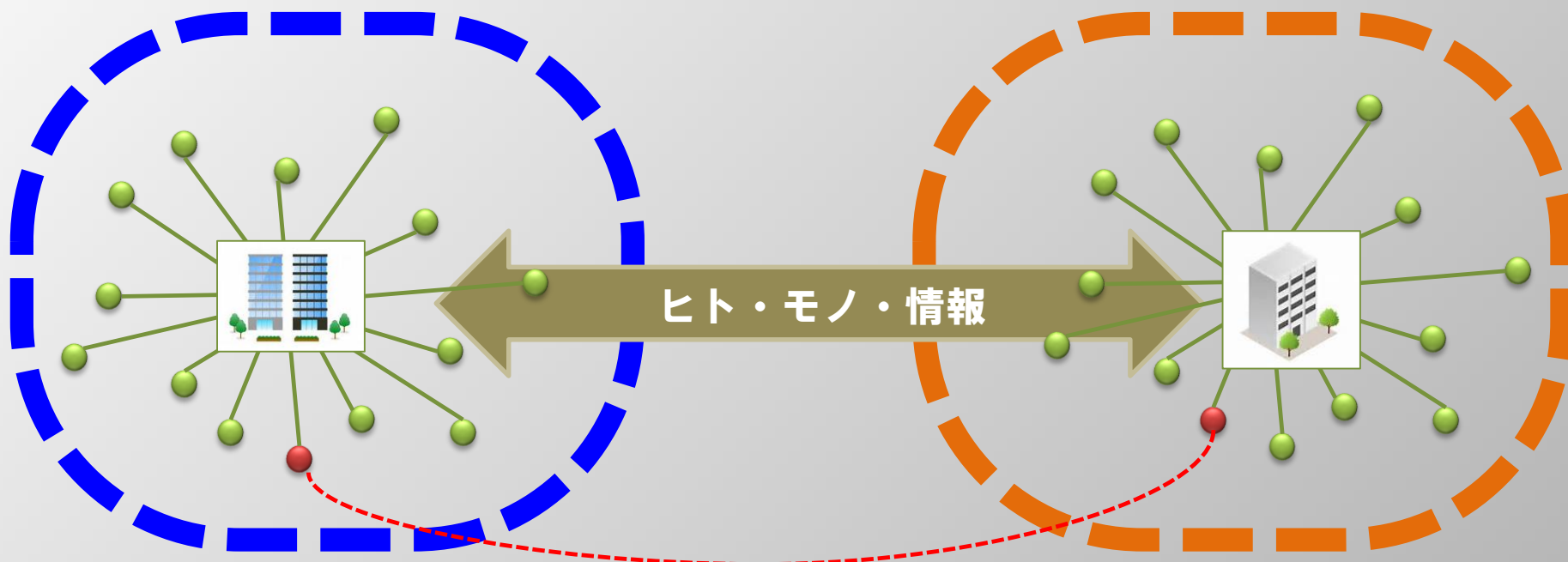
地域全体の
持続可能性

ドメイン間での繋がりとハブ＆スポーク構築

都市部

ここでいうドメインは物理的なドメイン
だけでなく事業ドメインも含む。

里山



自然に繋がる可能性がないプレーヤー同士の繋がりができる

各ドメインのハブとなるプレーヤー間を結び付け
それぞれのネットワークを活用することで
地域に対して新たな価値を創出できる。

ご清聴ありがとうございました。

